

2018年 春の大セミナー 5th C テーブル 総評

ジャッジ：成蹊4年 市川

<テーブルメンバーと順位>

- 1位 坂本（上智2）
- 2位 花村（獨協3）
- 3位 中村（東洋2）
- 4位 渡部（青学2）
- 5位 西村（フェリス2）
- 6位 水島（武蔵2）

1. 議論の流れ

<Narrowing>

花村のナローによりディスカッションがはじまる。花村のみが立候補し、オピメは花村に決まる。

<ASQ>

主に坂本が、C/Pの定義、種類など今回オピメがどこまで narrow しているか積極的に質問していた。中村が teacher の定義について質問し、自分の idea と関連つけて質問していた。

<NFC>

まず初めに、中村が「現状 keep のままでも体罰は減少するので×NFC」という反論を出した。花村、水島が質問をしてアイデアを検証していたが、途中中村自身が質問に対して説明しきれずアイデアを引いてこの話は収束した。

次に、坂本が「体罰はいじめを防いでいる 変える必要性がないので×NFC」という反論を出した。中村が Data について質問をいくつかして検証したあと、花村が warrant について質問をする。検証した結果、体罰がなくなることでいじめが増加し、生徒が s/m を受けることが問題であると判明し、花村が S を出して坂本のアイデアを DA につなげて、話しが収束した。

<Solution>

まず、Practicability では西村が「政策によって先生の免許が失われることで先生の数が増えるので×praca」というアイデアを出した。これに対し、花村が先生の数が増えるのと×pracaのlinkageは何かと質問すると、学校の数が増ってしまうからだと西村が答えた。特に深い検証は行わず、花村がSをうちDAにつなげて話しが収束した。

次に中村がwarrantでアイデアをだすものの、坂本、花村を中心に検証していくにつれてそのアイデアがpracaだと判断し、坂本がSを出してpracticabilityに戻った。「体罰なしでは、抑止力が下がってしまい学級崩壊するので×praca」という中村のアイデアで検証が進んだ。坂本が抑止力が下がるのと学級崩壊するlinkageについて質問をし、Cにつなげてオピメと中村のアイデアとの対立軸を示した。結果坂本がSを出して中村のアイデアをDAにつなげて話しが収束した。

<Comparison>

DAには渡部が選ばれる。花村が提示したAD>DAのアイデアはストレス耐性をつかったオーソドックスなものであった。渡部、坂本を中心に質問をして検証を行い、このコンパリアイデアに渡部が反論を提示して検証中にディスカッションが終わった。

2. テーブル全体について

全員が考え議論に参加していた姿勢がみられたので雰囲気の良いテーブルだと感じました。時々テーブルが止まってしまう部分があったので、議論を進めるためには次どうすればよいのか各自もっと積極的に意志を提示するだけでもだいぶ変わると思います。新しいwordやvague wordの意味が曖昧なまま議論が進んでしまうことが多かったのもっと積極的に質問をして深めてほしいなと思いました。

3. テーブル順位及び個人評価

1位 坂本（上智2）

だれよりも議論を進めようとしている姿勢があり、積極的に質問やCなどで相手の介入を助ける役割を担っていてテーブルに大いに貢献していた点を評価しました。テーブルでいま何がおきているのか、率先してCやSをだしていました。相手の意図をくみ取りチョイスを出すように意識するだけでもより質の高いCがたくさんできると思います。伸びしろはたくさんあるのでぜひあきらめず頑張ってください！これからの成長に期待しています！

2位 花村（獨協3）

相手のアイデアに対して積極的に質問をして意図をくみとっている姿勢が見られた点を評価しました。オピメとして議論を進めているとき、時々軸にぶれがみられたので、自分が今日救いたいTGは誰なのか、どこまでをconsiderすべきなのかしっかり線引きをしてほしいなと思いました。介入する際にeffectやgoalをもっと明確にして相手にわかりやすいプレゼンを意識すれば浸透率もかなり良くなって、Sにもつなげやすくなるとおもいます。アッセンまでにできることはまだまだたくさんあります。あきらめず最後まで頑張ってください！

3位 中村（東洋2）

アイデアを積極的に提示して自分の意見をテーブルに浸透させ、他者介入をして議論に参加しようとしていた姿勢を評価しました。プレゼンで相手になかなか伝わらず苦戦していた場面があったので、質問や介入をする際は、自分の言いたいclaim、reasonをはっきりさせることをこころがけてみてください。プレパなどでたくさん話す練習をこなせば劇的に改善されると思います。まだまだ成長するのでテーブルへの姿勢を維持してこれからも頑張ってください！

4位 渡部（青学2）

DAに選ばれ、コンパリでいくつか質問をして、DA>ADの反論を提示できていました。コンパリソンからおもに質問をして介入していたので、ASQ、APでもぜひやってほしいです。ASQ、APでもアイデアを提示したり質問する能力は絶対にあると思うので、あきらめずに実践してほしいなと思いました。自分のアイデアをたくさん話せたほうがもっとデイスにやりがいを感じられると思うので、簡単なQやCでよいのでできることからどんどん挑戦してほしいと思います。がんばってください！

5位 西村（フェリス2）

自分のアイデアを提示して、質問を通してテーブルに貢献していました。アイデアでは自分がどうしたいのか意見もかねてしっかり説明できるとさらによいと思います。積極的に質問や相手の意見に対して介入ができるともっともっとテーブルに貢献できるとおもいます。応援しています！

6位 水島（武蔵2）

相手のアイデアに対してチョイスを出して意図を組むことでテーブルに貢献していました。相手の発言にもっと積極的に質問や簡単なCで介入量を増やすだけでもかなり変わります。ぜひ挑戦してみてください！